

令和3年度 福岡市立〔 原西小 〕学校 学校評価実施状況(公表用)

めざす学校像・子ども像・教員像		課題	今後の改善方策
【めざす学校像】 ・一人一人の個性を認め、心を育む学校 ・教師が一つにまとまり、秩序と規律があり、保護者・地域から信頼される学校 ・美しく、落ち着いた環境で通いたくなる学校 【めざす子ども像】 ・進んで学び、最後までやり抜く子ども ・自分の事も他人の事も大切に子ども ・明るく元気でたくましい子ども 【めざす教師像】 ・児童・保護者に愛情をもって寄り添い、信頼させる教師 ・より高い人権感覚をもち、健康で心豊かな教師 ・専門職として研修を深め、組織の一員としてお互いに高め合える教師		確かな学力の定着 不登校児童、遅刻者の減少 道徳心の向上	・学習の手引きを作成し、子どもや保護者に向け、家庭学習の定着を図るための指導(周知)を行う。 ・国語科の学習指導をテーマ研修とし、授業改善に向け、全職員が指導案を作成し授業公開を行う。 ・児童の発達段階に応じた学習規律の徹底を行う。 ・SCやSSWと連携を図りながら不登校児童及びその保護者と面談を継続して行う。 ・登校しやすい雰囲気づくりや、魅力ある学校行事・学力保障の手立てを行う。 ・早寝・早起きの指導を保護者に協力依頼するとともに、連絡帳で個別指導を行う。 ・社会的なルールやマナー(特に情報モラルやマナー)についての指導の徹底を行う。 ・自尊感情を高めるためのソーシャルスキルトレーニングを行ったり、学級力アンケートを活用したりした集団づくりを行う。 ・全ての教科において、人権教育を基盤とした学習を行う。
重点目標	指標(取組指標・成果指標)	達成状況についての説明	
主体性を育む授業づくりを推進し、学力の向上を図る。	全学級で、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業展開を意識し、日々の授業に反映させる。	・ICT機器を活用し、子ども達の深い学びの実現に取り組んだ結果、子ども達の関心や理解は高まっていることが、児童のアンケート結果からうかがえた。今後は、教師のICT機器活用に関するスキルアップが必要と考える。 ・本校の研修のテーマとして「進んで自分の思いや考えを表現する子どもの育成」を掲げて取り組んだこともあり、感染防止に注意しながら交流活動を行うことができた。 ・家庭学習の状況を連絡帳や面談を通して把握することで、個別指導を行ってはいるが個人差が大きい。今後、保護者の協力をどのようにしていくかが課題である。	
	3密を避ける活動の中でも、児童個人の活動場面や表現活動を多く取り入れた授業を展開する。		
	自学の内容を盛り込んだ家庭学習の90パーセント以上の実施をめざす。		
不登校児童の減少を目指し、支援の充実を図る。	不登校児童数を前年度人数から2割減少させる。	・昨年度同様、長期欠席者の復帰者数がみられる。担任をはじめ、他の職員による保護者連絡が影響していると考えられる。 ・必要に応じてケース会議を開き、気になる児童の共通理解を行うことができた。異学年への直接的な指導は少ないが、事例から学ぶことができ、他の学年等への取り組みに活かすことができた。 ・SCやSSWの連携は出来ているが、昨年度同様、中学校籍の不登校対応教員が小学校へ訪問する回数が少なかつたため、十分な打ち合わせができていない。	
	ケース会議を開き、児童の実態を共通理解するとともに、取組方法について検討する。		
	不登校対応教員・SC・SSWの3者の連携により、不登校状況の改善を図る。		
基本的な生活習慣の確立を行う。	別室登校による段階的な教室復帰をめざす。	・日常的な挨拶から授業前後の挨拶に対して、粘り強く指導を行った。少しづつではあるが自ら挨拶をする児童が増えてきた。また、掃除前の黙想についても、定着しつつあるが、無言清掃時におしゃべりをしながらの掃除を行う場面もみられた。 ・今年も早寝・早起き、朝ご飯の実施率は、平均的に高い水準を示している。今後も基本的な生活習慣についての啓発を行っていききたい。 ・遅刻児童数が、学期が進むにつれて減少している。また、門限の時刻に間に合うように急いで校門に駆け込むようになった。	
	学期末アンケートで、挨拶や掃除を積極的にしていると肯定的な回答をする児童を7割以上にする。		
	早寝・早起き・朝ご飯の保護者啓発を行うとともに、アンケート調査により実態を分析し、今後の目標を立てる。		
遅刻児童を昨年度より減少させる。			
学校関係者評価についての説明(評価委員からの意見・要望・改善に向けた提言等)			
・今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止により、学校行事や地域行事が殆ど実施されず、子ども達の学校生活の様子を参観することが出来なかったのが残念です。しかし、学級・学校だよりにより、子どもたちが元気に活動している様子が伝わってきた。一日も早く、以前の状況に戻り、子ども達の元気な声を聞きたいと願っています。 ・コロナ禍で、子ども達の交流が制限されている中、子ども達のコミュニケーションを大切にしようと、研究テーマに「書くこと」をされてありました。地域や家庭においても、子ども達とのコミュニケーションを大切にしていきたいです。 ・子ども達一人ひとりにタブレットが配付され、授業で活用しているとのこと。情報モラルやマナーがきちんと守られているかが心配です。			